

令和５年度第３回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和５年１２月１２日（火） １６時３０分 ～ １７時３０分

開催場所：タス ２階バンケットホール紬

出席者：２９名（委員１１名、事務局１８名）

■振興審議会委員 寒河江忠委員、加藤眞佐夫委員、蒲生直樹委員、上村正巳委員、青木
與惣右エ門委員、下平裕之委員、井上榮子委員、鷺見孝委員、梅村
律子委員、土屋智代委員、長沼真知子委員

（出席１１名、欠席７名）

■事務局 内谷重治市長、齋藤環樹副市長、土屋正人教育長、竹田利弘政策推進
監、青木邦博技術参与、高石潤一危機管理参与、新野弘明総務参事、
梅津義徳厚生参事、赤間茂樹産業参事、佐原勝博建設参事、三瓶仁
之総務課長、佐藤久財政課長、高世潤教育総務課長
総合政策課 渡邊恵子課長、佐々木真一総合戦略室長、長谷部貴子主
査、安部惇士主任、本間主事

傍聴者：山形新聞社

【次 第】

- １ 開 会
- ２ 事務局説明
- ３ 答 申
- ４ あいさつ
 - （１）下平会長
 - （２）市長
 - （３）委員
- ５ その他
- ６ 閉 会

【議事録】

１ 開 会

２ 事務局説明

事務局より第六次総合計画（案）の最終確認分の委員意見への対応について説明
（資料１）

３ 答 申

下平会長より答申を読み上げてもらい、その後市長へ手渡し

４ あいさつ

（１）下平会長

私は五次総の時に市民未来塾に関わっており、当時の北川会長を見ながら「大変だ」と他
人事のように思っていたが、まさか自分がその立場になっているとは思わなかった。皆様の
おかげで今回この答申ができた。ご協力いただいたことに大変感謝申し上げます。

今回の策定の過程で二つ印象に残ったことがあった。一つ目は「水と緑と花のまち」につ

いて、将来像の議論の中で、これを将来像として良いのではないかという意見が出た。長井市にはこのような言葉があり、山形県内でも市民がこれほど認知している言葉がある自治体はないと思った。このことから長井は他のまちよりも素晴らしいということを感じさせてもらった。

市民ワークショップ、地区ワークショップにも全て関わったが、ワークショップでは皆様が長井市、あるいは各地区の将来・現状について様々な思いを持っていることに改めて気づかされた。どんな計画を作っても、市民の方が自分のまちを良くしようという思いが無ければ意味がない。長井市民の方はそれぞれ思いを持っていることに改めて気づいた。

基本構想の将来像などは非常に抽象的なものだが、行政としてできることに落とし込むために事務局は苦労したと思う。計画についても構成を工夫し、市民の方にもわかりやすい内容になっていると思う。皆様が努力されてこういった計画ができたことに改めてお礼申し上げます。

これから計画を実施していくわけだが、ぜひ市民全員で共有していただきたい。現状の課題を共有し、それから10年後の未来の長井の姿を共有し、長井市を少しでも良くするためにご尽力いただければと思う。

（２）内谷重治 長井市長

下平会長はじめ委員の皆様には令和4年から2年間大変お忙しい中、長井市の総合計画を策定するために様々な意見をいただき、大変素晴らしい答申を頂戴したこと、長井市を代表して心より敬意を表し、感謝申し上げます。

この総合計画の策定にあたって、振興審議会はもちろんのこと、市民意向調査や各地区、市全体でのまちづくりワークショップに参加いただき、様々なご意見を頂いた。それらを第六次総合計画の中に取り入れていただき、大変素晴らしい計画（案）を作っていただいたことに、改めて厚く御礼申し上げます。

新しい第六次総合計画の将来像は「みんながしあわせに暮らせる長井〜ずっと笑顔あふれるまち〜」ということだが、第五次総合計画の将来像は「みんなで創るしあわせに暮らせるまち長井」であり、第五次総合計画を作る際にも北川会長のもと2年間に渡って審議いただき素晴らしい計画（案）を作っていただいた。第六次総合計画も、第五次総合計画と基本的には同じ考え方だと思っているが、第五次総合計画で作っていただいた、長井市の将来につながる幸せをつくるための様々な事業等を発展させた、この先20年30年先を見据えた素晴らしい第六次総合計画を作っていただいた。その根底にあるものは、多様性を認め合い、インクルーシブな社会を作っていくということ。そして究極の目的は、市民の皆様それぞれお一人おひとりが自分なりのしあわせを感じ笑顔で暮らしていける、社会や地域との繋がりや個人の様々な活動のなかでそれぞれのwell-beingを感じる、しあわせを感じることができるまちをめざすということ。

市内の高校、中学に講話をさせていただく機会をいただいているが、今回は昨年からのウクライナの問題やイスラエルとガザをめぐる社会の状況なども中学生のうちから考えていく必要があると思っている。世界、日本の課題は何なのか、私たちのまちの課題、そして今の子どもたちのためにしっかりバトンタッチができるまちづくりをしていくということを話すつもりでいる。その根底にある、お互いを認めあい、障がいの有無、年齢、性別、宗教、国籍などを乗り越えてみんなで支え合う社会づくり、そして人に対して寛容な社会を目指して、持続可能な長井を作っていくという決意の表れがこの総合計画（案）だと思っている。まずは市職員一丸となってこれを着実に自分の血と肉にして業務にあたる。そして市民の皆様、企業等各種団体の皆様と力を合わせてこれを実現すべく一步一步前進していきたい。今後とも委員の皆様には様々ご指導、ご助言賜りますようお願い申し上げます、御礼と来年度からの決意のあいさつとさせていただきます。

（３）委員

（委員）

会議全てには出席できなかったが、大変勉強になった。農業分野については農業委員として携わっている分野。第六次総合計画に基づいて、長井の農業をしっかりと取り組んでいき

たい。

（委員）

委員をやっていく中で、行政が行っている中身がわかるようになった。個人的には積極的に長井市の事業に参加をするようにしている。

以前はタスで産業博をやると 1000 名ほどが来た。今は数が少ないものの 100 人、200 人は来られるので、そういった方に産業界の PR をしている。しかし、企業は行政の目指すところの本質を理解していないと思う。もしくは理解していても近寄っていかない。そこを何とか各企業、事業主の方々が行政と一緒にやっていかなければならない。せっかく「くるんと」などができて良いまちになり、人が集まってもそれを利用できないのは残念だと思う。

生きがいや住みやすさ、または高齢者の集まる場所にしても以前は商店街が担っていた。行政の力を借りながら、商工会議所も万全の体制でバックアップするので、明るく、人が集えるまちにしていきたい。

（委員）

これまでの振興審議会で様々なことを申し上げてきたが、審議会に出た意見を汲んでいただいたと思う。大変だったと思うが、事務局の皆様に敬意を表する。あとはこの計画をいかに市民に周知をしながら、長井を幸せに暮らせるまちにしようという想いを市民の中に醸成していくかだと思う。その部分を大変だと思うがよろしくお願いしたい。私としても、できるだけのことはしたいと思う。

（委員）

振興審議会委員として、行政の全般的な部分に携わることができよかった。第五次総合計画期間に、「くるんと」をはじめ、道の駅川のみなと長井、旧長井小学校第一校舎など、まちの賑わいができてきている。ただ、街中については商業施設含めて、今後賑わいが高まっていくと良い。そのためには民間企業の関わり、民間が主導となってやっていくことが必要になってくる第六次総合計画だと思う。水のまちということで、中小河川の多いなかで、土砂の除去作業をやっており協働の部分ということで一緒になってやっているの、そういったことも継続しながら、市民一人ひとりが関われる部分で、関わりながら計画を具現化していきたい。

（委員）

委員として参加し勉強になった。子どもが二人とも小学生ということで教育分野、子育て分野について、そして惣邑を作っている視点から重点的に見てきた。ちょうど 10 年後は子どもが二十歳になる年。この計画を全て達成していることをお願いし、子どもがこの長井市に生まれて良かったと思えるようになっていくことを期待する。答申にもあったが、市民一人ひとりのまちづくりへの参画が不可欠。私は率先して参画していきたい。惣邑の日本酒を日本全国に広め、長井市を全国に広めていくのが使命だと思っているので、念頭において頑張っていく。

（委員）

このような基本的な計画があること自体知らなかったの、今回関わらせていただいてすごく幸せだった。しかし、振興審議会という名前を知らないという方はたくさんいる。そこで、ピアノの伴奏で演奏会に出る時のプロフィールには音楽とは関係ないが「長井市振興審議会委員」と書いた。この計画をもとに今後何ができるかということを考えながら、一市民として実行に移していきたい。今は SNS の時代だが、高齢の方のネットワークは口コミが一番。口コミを通じて、長井市の情報を広める活動を今後もしていきたい。

（委員）

第五次総合計画の時から関わらせていただき、大変勉強をさせていただいた。個人としては、中心市街地に住んでいるので、賑わいのある街中を作るという使命があるのかなと思う。

具体的にこれから何をしようかと考えた時、基本計画（案）の中に、「市民のアクション」というわかりやすい書き出しがある。子どもにも誰にでも説明しやすいと思った。これを日々の生活に活かしていき、上の世代、下の世代にも伝えていきたい。個人的には、インクルーシブという市の取り組みは大変ありがたいと思っている。行政主導でしていただいても、なかなか当事者は踏み出せなかったり、殻を破れなかったりする。個人的にはそこを頑張っ
て考え方を前に進めていけるように、それは障がい者のためになどということではなく、すべての人のための素晴らしい社会なのだとすることをみんなが理解できるように、地道なことを頑張っていきたい。

（委員）

審議委員の構成について、委員 18 人のうち女性が 6 人で若い方が多数いるということで、市の将来性を考えた時に様々な分野の方の意見が聞くことができた。事務局としてはとりまとめが大変だったと思うが、良い答申ができたのではないかなと思う。

また、観光振興の立場で、基本構想（案）の中では改善しなくてはいけない分野になっている。過去 3 年間コロナということで、これまでは「コロナだったので」と言い訳できたが、これから来年以降言い訳ができない。是非この長井市、観光局としてはこの置賜 2 市 3 町でこの地域を振興して観光による地域づくりの一翼を担えればと思っている。

（委員）

下平会長には、山大の 3 人の先生方のご協力とともに、市民の声をまとめていただき大変ありがたい。私は男女共同参画推進審議会の委員として主に発言させていただいた。すでに市がダイバーシティ、インクルージョンに積極的に取り組んでいる中で、温かい賛同の声をいただいたり、積極的に事務局に様々な取り入れてもらったりと本当にありがたいと思っている。今までの会議の中で意見したように、男女共同参画は女性だけでなく男性も含めて、色々な方々が幸せに生きていくための根幹にあたるもの。たくさん目標があるが、一つの分野でなく、観光、行政、福祉、健康など様々な分野で、分野を横断してこの視点が大切だと言われている。是非今後計画を推進するにあたって、そういった理解のもとで取り組みを進めていただくことに期待したい。また、市民との共有が本当に大事になる。これからコミセンや様々な場で共有していく時に、女性が 3 割以上参加しているのかもチェックしていただきながら、計画を推進していただきたい。

（委員）

各地区のコミセンは小さな拠点として活動しているわけだが、その中でも生涯学習を含めて、「地域づくり」という観点で新たに進めている。ここが壁で、大変な部分も多い。その中で特化しているのは、「おぼこからとしよりまで笑って暮らせるまち」ということで、まずは 2、3 年後にできるもの、5 年後にできるもの、10 年後したいものということで計画を立てている。一番と成果が出ているのは居場所づくり。これからも行政に伴走支援をしてもらいながら不足の点を進めていきたい。

5 その他

特になし

6 閉 会